

地震発生時の避難 複数の選択肢を想定

災害に
備える



能登半島地震に続き、8月には「南海トラフ地震臨時情報」が発表されました。もし大きな地震が発生したら、停電や断水が発生します。余震の不安を考えると、多くの人が自宅からの避難を急ぐのではないでしようか。少しでも安心・安全に避難するため、今回は「経路」と「場

所」について考えたいと思います。まず家の中の経路です。倒れたタンスで扉が開かないということなどが無いように、扉、通路、玄関など、避難の導線は確保できているか、家具の転倒防止対策が施してあるか、最初に確認してください。

次に避難所への経路です。通常は使い慣れた道を通ると思いますが、しかし、倒壊した家屋・電柱・ブロック塀で道が塞がっている、液状化などで道路が陥没・隆起しているなど、想定外の事態で道を通れないことが想定されます。そんな場合に備え、複数のルートを知っておくことも大切です。

一方、避難所に行けない、行くことに不安を感じる、ようやく着いた避難所でも、何かの事情で十分な安心・安全を感じられないと

安全を感じられないとしたらどうでしょうか。避難の時間帯、被害状況、家族構成などにより取れる行動は違うと思いますが、そんな場合は避難所以外での避難も視野に入れることとなります。

エコノミー症候群への備えなどが十分であれば、車中泊も一つの選択肢です。地域内の耐震性のある店舗や事務所を、持ち主の合意の上で使う、ガレージや倉庫を一時的に使うなど、さまざまな場所の活用も考えられます。

余震などでの2次被害、移動中の事故など、地震災害では風水害とは異なるリスクも多く潜んでいます。命を守り、安心・安全な場所に避難する。そのために複数の選択肢を事前に考えてみてください。(特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 増田 勇希)



庭に建てられたインスタントハウス



液状化で隆起したマンホール

犬猫の譲渡と殺処分

保護犬・猫を飼うという選択肢



県動物愛護センターにおいて、毎週土曜日に開催する犬猫譲渡会では、毎週多くの方に迎え入れていただき、昨年度は県が収容した犬猫のうち、約250頭が

新しい家族として迎え入れていただいております。また、日曜日には民間の動物愛護団体やボランティアの皆さまも、譲渡会を開催していただき、民間で保護された犬猫も新しい家族として迎え入れていただいております。

多くの保護犬・保護猫が、新しい飼い主さんのもとで幸せに暮らしていることを、県としてもとてもうれしく思っています。

一方、私たちは過去に殺処分された犬猫がいたことを決して忘れてはいけません。広島県では、平成23年度に県内の犬猫殺処分頭数が全国ワーストとなり、8千340頭の犬猫が殺処分されました。

これまで県動物愛護センターで亡くなった全ての犬猫の霊を慰めるために、現在の動物愛護センターには、旧センターから移設した動物慰霊碑(いつくしみの碑)があります。碑に刻まれた「いつくしみ」は、弱く小さな存在である犬や猫のことをいいたわる気持ちを表したものです。

皆さまで県動物愛護センターに來られる機会がありましたら、この碑を訪れ、手を合わせていただければ幸いです。(広島県健康福祉局 食生活衛生課)



旧センターから移設された動物慰霊碑(いつくしみの碑)

高温により品質が低下 高温耐性のある品種を奨励



⑮米への影響

9月になっても猛暑日が連続するなど、今年も暑い夏になりました。

食卓に欠かせない米が、気温上昇による夏の高温の影響を受けています。水稻は穂が出てから20日間程度の期間(登熟期の前半)に異常な高温状態に置かれると、米の白濁(白未熟粒)が発生しやすくなるとされており、品質低下の一因となります。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)によると、極端に気温が高い年や一部地域では白未熟粒の発生に加え、収穫量の減少も報告されています。

これまで、広島県内でも、特に標高100m以下の地域で栽培されている「ヒノヒカリ」で品質低下が顕在化していたため、平成26年度、高温による



登熟期に高温条件にした米(左)と普通栽培の米(右)。左には米の白濁が多くみられる。(品種:山田錦)

(写真提供:県立総合技術研究所農業技術センター)

米の品質低下が発生しにくく、栽培しやすい特性を持つ「恋の予感」が、南部(標高150m以下の地域)の奨励品種に採用されました。他府県においても、高温の影響を受けにくい「きぬむすめ」、「にこまる」などの高温登熟耐性品種が奨励品種に加えられています。

その他、日本酒原料の酒米にも高温による悪影響が生じています。そこで、本県では、県立総合技術研究所(農業技術センター、食品工業技術センター)、農研機構西日本農業研究センターなど、県内の6機関が共同研究を行い、品種改良によって高温への耐性を持つ酒造好適米を育成しました。その米は「萌えいぶき」と命名され、令和5年度から本県の奨励品種に採用されています。

高品質で豊かな味わいの酒質となりやすい「萌えいぶき」を原料とした日本酒が、少しずつ店頭に並び始めています。ぜひお試しください。

(ひろしま気候変動適応センター)



「萌えいぶき」と試験醸造された日本酒